



Nagasaki Institute of Applied Science

2005
NOVEMBER

学 報

No. 84

入試広報課 編集・発行



特集 就職支援からキャリア形成支援へ

長崎総合科学大学

URL <http://www.nias.ac.jp/>

就職支援から

キャリア形成支援へ

特集

大学の就職状況とキャリア支援事情

近年、各大学において学生に対するキャリア支援が熱を帯びている。これまでは企業からの求人票の取り扱いや求人先開拓など、就職斡旋が主な業務であった事務部門の就職部や就職課。これをキャリアセンター等と名称を変更し、個別相談やキャリア支援のための企画を担う主要部門と位置づけ、4年間の大学教育のなかでキャリア形成を目的とした支援体制を確立しようとする動きが活発化し、多くの大学で熱心な取り組みがなされている。背景には、若年者の早期離職問題、フリーターやニート問題、雇用のミスやマッチングなど深刻な社会問題が指摘されており、大学に課せられた社会的責任は大きい。そうしたなか、大学における就職状況と本学のキャリア支援事情の一端を紹介する。

今年度の大学生の求人状況

は、景気的好況感や企業の回復世代の大量退職を控えたいわけの2007年問題等の影響もあり、学生にとって売り手市場となっている。就職情報誌大手のデイスコの調査によれば、企業の採用意欲は急速に高まり、日本経済新聞社がまとめた「2006年度の新卒採用計画」によると、主要企業の来春の新卒採用人数は2005年度実績比20.4%増と、2年連続2ケタ増加。大卒に限ると、同23.9%増と26年ぶりの高さで、特に理工系は22.8%増と文科系15.0%を大きく上回るとしている。

4年生の就職活動体験記

就職に関しては、3年次からゼミに入り、ある時ゼミの教授から「就職はどういった関係の会社に行きたいのか？」と尋ねられ、「こういった会社があるかどうか。」と親切に薦めていただき、自分が大学時代学んだことが生かせる企業に無事内定をいただくことが出来ました。内定をいただく前にも、ゼミのOBで、現役社員の方のお話を聞く機会をいただき、会社説明会等では分からなかった現場の生の話も聞くことが出来て、先生には非常によくしていただきました。学生支援グループの就職係のスタッフの皆さんも、就職資料の見方で分からないことがあれば分かりやすく丁寧に教えていただき、就職に関する相談に親切に答えていただきました。すばらしいのはこれだけではありません。通常の授業のあとには、各種の資格取得支援のための講座がたくさんあります。その中に就職活動の準備のための講座もあり、自己PR法から面接のシミュレーションなども教えていただくことができます。私は、卒業研究ではLEDを使った照明器具を作ったり、電動モーターで動く二輪車のソーラスクーターを作ったりと、“ものづくり”に励む忙しい日々を送っています。しかし、毎日が新しい体験の連続で、とても充実した日々です。

今井つかさ さん

工学部建築学科4年
埼玉県立豊岡高等学校卒業
タマホーム(株)内定



私の就職活動はまず、3年の後期に大学で開かれる就活スキルアップ講座を受講することからはじめました。この講座では、就職活動とはどのようなものか、どんな仕事があるのかなど、様々なことを教わり、相談などもすることが出来ました。

私が一番そこで得たものは、自分とはどういう人間なのかということを知ることが出来たことです。いろいろな心理テスト的なものや、他人に自分はどのように写っているかなどを聞く機会があったことによって、自分が思っていた自分と他人から見た自分は異なっている部分があったりして驚きや発見もあり、とてもためになりました。そしてそれを踏まえたうえで、いよいよ本番の就職活動をむかえ、実際の面接では自分をアピールすることが出来たと思いますし、素直な自分を見せることで相手の企業の方も受け入れていただけたのだと思います。本学に入学し、この大学で多くのことを学び、自分が成長できたことに大変感謝しています。

4年生の就職活動体験記

る1,741社とバブル期をしのぐ勢いがある。

本学においては、2003年度より従来の就職ガイダンスと呼ばれる就職指導のプログラムを単位化し、「将来計画フォーラム」という学生のキャリア形成を視野に入れた講義科目を開設している。また、毎年2月には全国から企業を招いて「学内合同企業面談会(2005年2月・103社)」を実施、福岡の説明会

参加希望学生には、毎年貸切バスを運行するなど、学生の就職支援に力を注いでいる。多くの卒業生を輩出している伝統ある工学部に加え、情報学部、人間環境学部を擁する本学においては、ものづくり教育やフィールドワーク、充実した情報設備によるパソコン実習などを交えた実践的で多彩な教育プログラムを準備し、社会の求める人材の育成に力を注いでいる。それぞれ



資格にチャレンジ!!

教員免許状

機械工学科 / 高等学校教諭 1 種 (工業)
 船舶工学科、建築学科 / 中学校教諭 1 種 (数学)、高等学校教諭 1 種 (数学、工業)
 電気電子情報工学科、知能情報学科 / 高等学校教諭 1 種 (情報、工業)
 経営情報学科 / 中学校教諭 1 種 (数学)、高等学校教諭 1 種 (情報、数学)

環境文化学科 / 高等学校教諭 1 種 (情報)

取得可能資格

船舶工学科 / 第 1 級陸上特殊無線技士、第 3 級海上特殊無線技士、船舶主任技術者、2 級小型船舶操縦士
 機械工学科 / 安全管理者、熱管理士、ボイラー技士、自動整備士
 電気電子情報工学科 / 第 1 級陸上特殊無線技士、第 3 級海上特殊無線技士、電気通信主任技術者、電気主任技術者、電気工事士
 建築学科 / 1・2 級建築士、福祉住環境コーディネーター、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター
 情報学部 / 基本情報技術者、システムアドミニストレータ、CCNA、プログラミング能力検定ほか
 環境文化学科 / 公害防止管理者、環境計量士、作業環境測定士、福祉住環境コーディネーター、一般計量士

キャリア支援

本学では、「諒設計アーキテクトラーニング」「日建学院」の技術資格における数々の実績を基に運営されている関連スクール「諒 PCe ラーニング」「NIKKENbb スクール」により、資格・スキルアップ技術を e ラーニングで安価に提供できるよう提携し、学生のスキルアップを支援しています。また、キャリアカウンセラーによる「キャリアデザイン講座」「就活スキルアップ講座」も開講しています。(今年度は講義形式を含む 22 講座を開講)



学内合同企業面談会

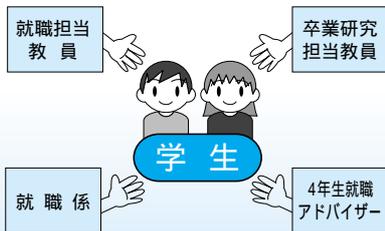


将来計画フォーラム



就職相談

● 本学独自の完全バックアップ体制 ●



これらの学部学科には、「就職担当教員」を配置、「学生支援グループ就職係」と連携し、これに「卒業研究担当教員」と「4年生の就職アドバイザー」と

「ゼミ」を加えた本学独自の完全バックアップ体制で、個別の進路相談に応じている。また、キャリア形成支援に効果が高いと指摘されている

4年生の就職活動体験記

私の就職活動を振り返ってみると 2 つの重要な要素を経験し、持ち合わせることができたことが大きかったように感じます。まずは 3 年次に受講した将来計画フォーラムでの自己分析やマナー講座などです。この経験で就職活動を始めるとあたっての事前準備をしっかりと行っていたうえで、就職活動の本番へと臨むことができました。活動開始当初は就職活動への危機感こそは持っていたものの、いざ始めようとしても何から初めていいのかわからない自分でしたが、このフォーラムのおかげで、何から初めればいいのか、また自分はどの分野へと進みたいのか、そのためにはどう動けばいいのかといったことを見つめなおす絶好の機会となりました。

2 つ目は、自分が大学 4 年間でやってきた経験です。それは、学業はもちろんのこと、学業以外での様々な経験もそれに該当するように思えます。長崎総合科学大学は学生を全力で応援していただける大学です。チャレンジすることの大切さを学んだ 4 年間でした。



牛島 啓介 君

工学部経営システム工学科 (現情報学部経営情報学科) 4 年
 長崎県立大村高等学校理数科卒業
 富士ソフト A B C 株 (東証一部上場) 内定

「インターンシップ」であるが、本学の場合、毎年夏休み期間中に、工場実習とインターンシップを実施し、今夏は 30 の企業や団体に 38 名の学生を派遣し、早期から、社会や将来を見つめる機会を提供している。主な派遣先は長崎市役所、長崎玉屋、(株)ホンダ四輪販売長崎、佐世保重工業(株)、三菱長崎機工(株)、西日本三菱重工業(株)、本学事務局(図書館)など。「現状では受入先企業に限りがあり、希望者全員が参加できる保証がない点が課題である。学生の皆さんには就業体験として捉え、広い視野をもってチャレンジしてもらいたい(教務課長談)。

その他、学生支援プログラムとして、インターネットを利用した e-Learning による 22 種類に及ぶ資格取得のための「資格受験講座」の実施やキャリアアカウンセラーによる「キャリア

ア・デザイン講座」「就活スキルアップ講座」を実施するなど、学生の将来をあらゆる角度からサポートしている。本学においては、グローバル社会、高度情報化社会の到来により、社会が求める付加価値のある人材を輩出すべく、なお一層の教育と研究の充実がもとより、入学から卒業まで線でつながるキャリア形成支援を充実させ、「ものづく

4年生の就職活動体験記

自分にとって就職活動は最初、とても不安でたまらないものでした。

3 年次から始まる将来計画フォーラムを受講したことで、危機感を強く感じるようになり、その後、徹底的な自己分析、就職情報サイトでのエントリーを積極的に行い、希望する企業があれば、たとえどんなに遠くても積極的に会社説明会へ参加しました。

その結果、企業にも自分の思いや熱意が伝わり、受験する企業はすべて受けました。

就職は今後の人生にとって、とても重要なものであると思っているので、後輩の皆さんにも精一杯頑張っ後悔のないように行動して欲しいと思います。私も本学で学んだことをぜひ今後に活かしていきたいです。

島田 昂 君

人間環境学部環境文化学科 4 年
 熊本県立東稜高等学校卒業
 (株)穴吹コミュニティ内定



り、「ことづくり」「ひとりごとづくり」という 3 つの「つくり」を実践すべく更なる改革と挑戦が続いている。今後企業及び地域の皆様のご協力、ご支援の程を何卒よろしく申し上げます。



写真一番上の左より備瀬さん、堤さん、大屋さん

「建築デザイン研究会」

旧浦上天主堂の模型を カトリック浦上教会に寄贈

建築デザイン研究会（主宰・松尾有平 工学部建築学科助手）は9月26日、カトリック浦上教会を訪れ、旧浦上天主堂の模型を寄贈した。



模型は、大屋奈津子さん（工学部建築学科3年）、堤千紘さん（同3年）、備瀬涼子さん（同3年）の3人が昨年6月から制作してきたもので、木材とプラスチックを使用した、実際の50分の1のサイズ。幅100cm×長さ175cmの台座の上に、塔の高さ約70cmの旧浦上天主堂が見事に蘇っている。制作においては、当時の資料が少なく自分たちで遺構を実測したり、関係者からの聞き取り調査などを行ったこと。この模型は8月6日から15日まで、同教会信徒会館で開催された「母なるふるさと浦上『母の風景展』」（被爆者で画家の築地重信さん主催）において展示され、多くの入場者の関心を呼んだ。

なお、同研究会がこれまでに作成した教会模型の展示会が、長崎ピースミュージアム（長崎市常盤町）において開催され、各マスコミに取り上げられた。生番組では、NBCテレビ「あっ！ぷる」に建築デザイン研究会メンバーと松尾建築学科助手が、NHK長崎放送局「もってこい長崎5」には松尾助手が出演した。

海外環境研修でカナダへ



人間環境学部環境文化学科では、9月の夏休み約3週間を利用し、カナダのヴィクトリア市にあるカモスン大学で環境研修プログラムを実施した。参加したのは人間環境学部環境文化学科の3年生11名及び工学部経営システム工学科の2年生1名と大学院1年生1名の計13名。木村博環境文化学科助教が引率で同行した。自然豊かなブリティッシュ・コロンビア州のビクトリア市でホームステイし、雄大な自然公園、堆肥処理施設、ゴミ処理

場、林業センターを見学しながら、英会話やカナダ文化を学んだ。帰国後の10月31日には「カナダ環境研修報告会」を開催し、参加した学生たちが、研修の成果と感想を発表した。



建築学海外研修でトルコへ

8月29日～9月12日の15日間、工学部建築学科の学生14名（4年生3名、3年生8名、2年生3名）が西洋と東洋の文明がクロスするトルコでの海外研修を実施した。これは、建築学科の授業科目「建築学海外研修」として毎年実施しているもので、今回は鮫島和夫建築学科教授が引率、渡航費用の一部や研修期間中の傷害保険等の保険契約費を大学が補助している。

研修では、ギリシア・ローマ時代の遺跡も多く残るトルコで、カッパドキアやブルーモスク、イスタンブールなど多くの世界遺産を巡り、大興奮の15日間だった。今回は11の都市（日本一周するほどの距離）をバスで移動、日本との文化の違いに学生も良い刺激を受けたようだ。



夢の船研究会

「ソーラー&人力ボートレース
全日本選手権大会」

2部門独占

優勝

の快挙



ソーラー&人力ボートレース全日本選手権大会2005(日本ソーラー・人力ボート協会主催)が8月28日、29日の2日間、静岡県浜松市の佐鳴湖漕艇場で開催され、工学部船舶工学科の「夢の船研究会」(顧問・野瀬幹夫、林田滋尚教授)が、人力ボートの部とソーラーボートの部において、見事学生優勝を果たした。

人力ボートの部に出場したのは新主翼ストラットを装備した人力水中翼船「West Gate05」。学生の日頃の努力が実り、向かい風の悪条件の中、好成績を納めた。ソーラーボートの部では軽量化された新艇で望み、好成績を納めた。

また、同研究会は去る8月6日、7日に柳川市で開催された「2005柳川ソーラーボート大会」(大会実行委員会主催、一般19艇、学生51艇、計70艇が参加。)にも出場し、「ソーラーアババ10」がフリースタイル学生部門で見事準優勝を果たした。

「夢の船研究会」の活躍ぶりは、NBCテレビ「あっぱる」(9月29日)にて『おめでとう!長崎総科大「夢の船研究会」・学生部門全国4連覇!人力で浮かぶ究極の水中翼船』という企画で取り上げられ、機体の調整や練習に励む学生の様子やインタビューなどが放送された。

サッカー部

長崎県大学サッカー
秋季リーグ

優勝

10月に開催された平成17年度長崎県大学サッカー秋季リーグにおいて、サッカー部(主将・松下俊史君工学部経営システム工学科3年)が2勝1引分けて見事優勝を飾り、12月に福岡市で開催される九州大会への出場切符を獲得した。サッカー部は、部員不足に悩むなか大健闘。日頃の練習の成果とチームワークを存分に発揮した。九州大会での活躍が期待される。



準硬式野球部

長崎県大学準硬式野球
秋季リーグ

2位



9月に開催された平成17年度長崎県大学準硬式野球秋季リーグにおいて、準硬式野球部(主将・中尾大輔君工学部経営システム工学科3年)が3勝3敗の成績で2位に輝いた。

極真空手部

山田泰紀君
長崎県空手道
選手権大会

ベスト4

第22回オーブントーナメント長崎県空手道選手権大会が7月17日、長崎県立総合体育館にて開催され、山田泰紀君(工学部機械工学科2年、極真空手部)が一般の部において見事ベスト4に進出、惜しくも決勝進出はならなかったものの、第4位と技能賞に輝いた。一般の部には、77名がエントリー、4位以上が10月に開催された全日本空手道選手権大会への出場権を得た。山田君も今回全日本への出場権を獲得したものの、今大会での負傷により、残念ながら欠場したが、今後の活躍が期待される。

長崎ペーロン
選手権大会に

出場



長崎の夏を彩る「長崎ペーロン選手権大会」(大会実行委員会主催)が8月6日、7日、長崎港で開催され、ペーロン部(主将・高橋仁君人間環境学部環境文化学科4年)が7日の一般対抗レースに出場した。ペーロン部は大学チームとしては唯一の出場で、予選第4レースに5分19秒93というタイムで6位、続く敗者復活戦でも5位と、残念ながら準決勝進出はならなかったが一般の強豪チームを相手に果敢に挑戦した。





オープンキャンパス 開催



2005年度オープンキャンパスが7月31日、9月19日、11月12日の3回、シーサイド、グリーンヒル両キャンパスで開催され、全国から多くの高校生、保護者並びに高校の先生方の来場があり、いずれも大盛況のうちに終了した。第1回の7月31日は、時折激しい雨が降るあいにくの天候にもかかわらず、多くの来場者があった。林学長の歓迎挨拶の後、午前中はシーサイドキャンパスにて学部学科紹介と展示場見学、その後、グリーンヒルキャンパスに移動して学食体験。午後からは模擬講義「高輝度発光ダイオード(LED)の応用」(辻史郎工学部教授)、学部学科の自由見学、体験学習等が実施された。第2回の9月19日、模擬講義は「エネルギーのなし」(藤川卓爾工学部教授)。ヨット乗船もあり、参加した高校生から好評だった。第3回は造大祭開催中の11月12日、模擬講義は「彩色付古葉書にみる古きよき長崎」(ブライアン・パークガフ二人間環境学部教授)。オープンキャンパス企画コンテストの表彰式もあり、大変賑やかな一日だった。



2005年度

父母懇談会 開催

在学生のご父母を対象に毎年実施している父母懇談会が、6月18日の長崎会場を皮切りに佐世保、佐賀、別府、宮崎、鹿児島、那覇、福岡、松山、山口、広島、大阪、東京の13会場で開催され(長崎は学年別に2回)、349組467名の出席者があった。

まず始めに、大学の現況および就職状況などについて報告があり、その後、各学科別の個別懇談が行われた。懇親会(立食パーティー)では、ご父母と教員はもとより、ご父母同士の親睦が深められた。なお、長崎・佐世保・東京・別府地区では山下手力後援会事務局長が出席され、就任挨拶と後援会の活動報告が行われた。

韓国・仁徳大学学長が来学

本学と交流協定を結んでいる韓国・仁徳大学の金洛培学長が10月19日、表敬訪問のため本学を訪れた。来学されたのは金洛培学長をはじめ、許潤基、Choiwon、森伊作の国際交流担当4氏。長山理事長、林学長との歓談の後、本学学部長、事務部長並びに事務局長と交流に関する協議を行い、グリーンヒル、シーサイド両キャンパスの施設見学をされた。施設見学前には、韓国からの留学生で仁徳大学卒業の仁徳大学大学院生、仁徳大学附属工業高校卒業の別科生にも会われ、和やかな雰囲気の中、日本での生活について歓談された。



島原高校理数科1年生26名が 最先端技術を学ぶ

長崎県立島原高校理数科の1年生26名(男子16名、女子10名)が8月3日~4日の2日間、本学にて最先端技術に関する実験・実習を行った。今回の取り組みは「大学の充実した実験・実習設備を利用して最先端技術を学ぼう」と島原高校から本学へ申し入れがあったもので、生徒たちは普段の高校の授業では体験出来ない科学の先端技術に触れた。参加した生徒からは「設備がすごい」「貴重な経験になった」「授業が面白かった」「学食がおいしかった」などと好評だった。今回の実験・実習プログラムは次のとおり。講義:「IT(情報技術)は21世紀社会をどのように変えるのか」

- 1) 自作した模型船の抵抗試験、CADによる船舶設計の話と実習
- 2) ディーゼルエンジンの運転、LEGOブロックでの6足歩行昆虫ロボット製作
- 3) インバータによる電動機の実験と速度制御
- 4) 鋼材の引張試験による応力とひずみの測定
- 5) 3次元CGの制作、体操アニメーション
- 6) WebCGの制作、ホームページの作成
- 7) バイオマスエネルギー実験場の体験、データロガーを使った環境の計測





附属高等学校 文化祭 開催

10月21日、22日の2日間、附属高等学校の第33回文化祭が開催された。今年のテーマは「これぞ総附のQUALITY」。これこそが附属高校の文化祭だと言える楽しい文化祭にしようと1年生は展示、2年生はステージ上演、3年生は討論と個人上演などに取り組んだ。特に3年生の討論部門決勝では「原子力発電は是非か」というテーマで3年2組と3年4組が活発な議論を交わし、会場は熱く盛り上がった。今年も地元劇団「アクトーズ」を招いての「天使のココロに・・・」の特別公演も実施され、充実した文化祭となった。

第24回 附属高等学校 体育祭開催

附属高等学校の第24回体育祭が9月10日(土)、シーサイドキャンパスのグラウンドにて開催された。1年から3年各組が黄、青、赤、白、緑の各グループに分かれ、3学年が一緒にあって応援合戦を繰り広げるなか、生徒も先生も各種目において一所懸命に競技し、大いに盛り上がった。

プログラム

開会式	
徒競走	1・2・3 男
山あり谷あり	1・2・3 全女
棒倒し	2 全男
1500m 走	1・2・3 男
クラブ対抗リレー	クラブ員
棒引き	1 全男
パワフル競争	1・2・3 男
玉三郎軍団	3 男 3 全女
総高一の韋駄天(予選)	1・2・3 男
ムカデ de タッチ	1・2・3 男女
職員リレー	全職員
600m リレー	1・2・3 女
800m リレー	1・2・3 男
昼食	
仮装行列	3 全男女
総高一の力持ち	1・2・3 男
渦巻きタイフーン	1・2・3 全女
騎馬戦	3 全男
総高一の韋駄天(決勝)	1・2・3 男
色別対抗リレー	1・2・3 男女
スウェーデンリレー	1・2・3 男
閉会式	

ヨット部 古賀君、中野君、武次君が国体出場

9月に開催された第60回国民体育大会(晴れの国おかやま国体)の夏季大会に、附属高等学校ヨット部の古賀陽君(2年生)、中野龍次郎君(2年生)がヨット競技少年男子FJ級に、武次祐太郎君(1年生)が同シーホッパー級スモールリーグに出場を果たした。また、松久安則教諭もヨット競技の監督として選手団を指揮した。附属高等学校ヨット部は、6月に開催された長崎県高校総合体育大会において2連覇を達成。インターハイにも出場するなど毎年活躍している。

長崎総合科学大学附属高等学校 平成18年度 入学試験要項

募集定員 200名(普通科・男女共学)

		推薦入試	1次入試	2次入試
出	期間	平成18年1月12日(木)~18日(水)	平成18年1月12日(木)~24日(火)	平成18年3月14日(火)~17日(金)
	受付時間	9時~16時30分	9時~16時30分	9時~16時30分
願	資格	・本校のみの出願 ・成績、人物ともに優れている者 ・中学校卒業見込みの者	・中学校卒業見込みの者または卒業した者	・中学校卒業見込みの者または卒業した者
	手続	①入学願書 ②調査書 ③推薦書(本校所定のもの) ④受験料 12,000円	①入学願書 ②調査書 ③志願者一覧(本校所定のもの) ④受験料 12,000円	①入学願書 ②調査書 ③受験料 12,000円
試	試験日	1月20日(金)	1月31日(火)	3月18日(土)
	科目	数学・英語(リスニングなし) 面接	数学・英語(リスニングあり) 国語・社会・理科	国語・英語(リスニングなし) 数学・面接
験	携帯品	受験票・筆記用具・定規	受験票・筆記用具・定規	受験票・筆記用具・定規
	会場	長崎総合科学大学情報科学センター	長崎総合科学大学	長崎総合科学大学附属高等学校
合格発表	1月23日(月) 10時 (合格通知書を中学校へ郵送)	2月3日(金) 10時 (合格通知書を中学校へ郵送)	3月18日(土) 16時	
入学手続	期間	1月24日(火)~31日(火)	2月6日(月)~3月16日(木)	3月18日(土) 16時~18時 3月20日(月) 9時~16時30分
	受付時間	9時~16時30分	9時~16時30分	
提出物	①通知書 ②受験票 ③手続き費用 122,000円 ④誓約書・住民票抄本			

林一馬学長 起業家育成施設インキュベーターの誘致を長崎県知事に要望

林一馬学長は9月15日、長崎県庁を古川県立長崎シーボルト大学学長、崎山長崎大学副学長とともに訪れ、3大学学長の連名による起業家育成施設（インキュベーター）誘致の要望書を金子長崎県知事に提出した。3大学においてはこれまで、大学の研究に基づく社会貢献、地域貢献は大学の使命であるとの観点から、長崎県の特徴を考えたいと連携して貢献するテーマとして、OOL（クオリティ・オブ・ライフ）を目指す理工連携を掲げ、具体的な地域貢献には企業を立ち上げる必要がある、企業を育てる施設が必要であることを県、県に訴えてきた。このたび、起業家育成施設インキュベーターが中小機構インキュベーター長崎として経済産業省の平成18年度予算概算要求に組み入れられたことに伴い、平成18年度政府予算確保に向けた支援、事業用地の確保や入居企業の支援など本事業の実現に向けた協力をお願いした。

「福岡水素エネルギー社会 近未来展2005」に出展

新技術創成研究所は10月19日、21日、福岡県北九州市の西日本総合展示場で開催された「福岡水素エネルギー社会近未来展2005」にて、新規ナノカーボンの構造と物性、Liイオン電池・水素吸蔵材への応用を中心とした研究のプレゼンテーション（発表者・藤井光廣教授）と展示を行った。同展は、福岡・九州の多大なポテンシャルを背景に開催する日本でも有数の燃料電池・水素関連分野の展示会で、今後日本の基幹産業への発展が期待されている燃料電池及び水素関連分野における、先進的な技術を一堂に紹介し、技術・人材・情報の交流により、今後の市場形成の裾野拡大を目的に開催されたもの。

坂井正康人間環境学部教授 東アジアバイオマスシンポジウムにて講演

坂井正康人間環境学部教授が10月31日、11月1日、熊本市で開催された東アジアバイオマスシンポジウム「東アジアにおけるバイオマス利用の現状と方向」（農業施設学会、NPO法人九州バイオマスフォーラム主催）にて基調講演を行った。坂井教授は現在、発電効率の高いバイオマス（生物資源）発電システムの事業化に取り組んでおり、マスコミ各社にたびたび紹介されている。今回の講演テーマは、国内のバイオマス・エネルギー産業の構築に向けて。実用展開が期待される新しいバイオマス・エネルギー変換技術として、ガス化ガスエンジン発電や「クリン熱風発生炉」、「エンジン用メタノール製造」を紹介された。

共同公開講演会開催

「21世紀の科学技術」

- 産学官連携の促進をめざして -

日時 2005年11月19日(土) 13:00~17:30
場所 出島交流会館2階研修室(出島町2-11)
日程

来賓挨拶 九州経済産業局産学官連携推進室 室長 青木 宏氏

《基調講演》

「MOT（技術経営）と産学官連携」
大阪ガス株式会社特別顧問 松村雄次氏

《特別講演》

「燃料電池の現状と将来」
九州大学大学院工学研究院機械科学部門 教授 佐々木一成氏

《講演》

「長崎県大学発ベンチャーの概況と県立長崎シーボルト大学発ベンチャー（パイオラボ株式会社）」

県立長崎シーボルト大学看護栄養学部 栄養健康学科教授 久木野憲司氏

「先端科学技術と大学発ベンチャー」

長崎総合科学大学大学院 新技術創成研究所教授 田中義人

《総合討論》

「産学官連携事業における大学の役割」

司会 (学)長崎総合科学大学 常務理事・客員教授 吉村 進

パネラー 長崎総合科学大学 工学研究センター長 池上国広

長崎大学共同研究交流 センター長 江頭 誠氏

県立長崎シーボルト大学 副学長 貞森直樹氏

長崎県政策調整局理事 立山 博氏

長崎工業会会長 坂井俊之氏

《交流会》会場：トレディアホテル出島1階

来賓挨拶 長崎県政策調整局理事 立山 博氏

主催 財団法人九州産業技術センター

共催 長崎総合科学大学大学院新技術創成研究所、県立長崎シーボルト大学、活水女子大学

中国語に翻訳

「華の長崎」彩色絵葉書が伝えるメッセージ

NCC長崎文化放送で10月1日午後2時より「華の長崎」彩色絵葉書が伝えるメッセージ」という特別番組が放送された。番組では明治後期、昭和初期に長崎で盛んに作られた彩色絵はがきを集めた写真集「華の長崎」に注目し、編著者であるフ二人人間環境学部教授の話や、この本にほれ込んだ、さだまさしさんとの対談に加え、「華の長崎探検隊」が絵はがきの風景を訪ね歩いた。



李桓人間環境学部助教授が、早川和男同僚教授著「居住福祉」

平成16年度（2004年度）決算報告〔財務の概要〕

1) 資金収支計算（資金収支総括表）

（収入の部）

（単位 百万円）

科目	予算額	決算額	差異
1 学生生徒等納付金収入	1,707	1,692	15
2 手数料収入	25	26	1
3 寄付金収入	8	10	2
4 補助金収入	604	555	49
5 資産運用収入	15	14	1
6 資産売却収入	34	34	0
7 事業収入	167	178	11
8 雑収入	18	44	26
9 前受金収入	341	359	18
10 その他の収入	495	501	6
11 資金収入調整勘定	360	405	45
12 前年度繰越支払資金	1,466	1,466	0
収入の部計	4,520	4,474	46

（支出の部）

（単位 百万円）

科目	予算額	決算額	差異
1 人件費支出	1,549	1,664	115
2 教育研究経費支出	564	616	52
3 管理経費支出	244	263	19
4 借入金等利息支出	15	15	0
5 借入金等返済支出	56	56	0
6 施設関係支出	52	24	28
7 設備関係支出	99	77	22
8 資産運用支出	747	749	2
9 その他の支出	54	65	11
10 資金支出調整勘定	38	43	5
11 次年度繰越支払資金	1,178	988	190
支出の部計	4,520	4,474	46

2) 消費収支計算（消費収支総括表）

（収入の部）

（単位 百万円）

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	1,707	1,692	15
手数料	25	26	1
寄付金	8	15	7
補助金	604	555	49
資産運用収入	15	14	1
資産売却差額	21	21	0
事業収入	167	178	11
雑収入	18	45	27
帰属収入合計	2,565	2,546	19
基本金組入額合計	55	55	0
消費収入の部合計	2,510	2,491	19

（支出の部）

科目	予算	決算	差異
人件費	1,549	1,637	88
教育研究経費	840	880	40
管理経費	263	283	20
借入金等利息	15	15	0
資産処分差額	0	13	13
徴収不能引当金繰入額	0	5	5
消費支出の部合計	2,667	2,833	166
当年度消費支出超過額	156	342	
前年度繰越消費支出超過額	2,854	2,854	
翌年度繰越消費支出超過額	3,010	3,196	

3) 貸借対照表

貸借対照表

平成17年3月31日

資産の部

（単位 百万円）

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	11,086	10,551	535
有形固定資産	9,459	9,660	201
その他の固定資産	1,627	891	736
流動資産	1,086	1,976	890
資産の部合計	12,172	12,527	355

負債・基本金・消費収支差額の部

科目	本年度末	前年度末	増減
負債	1,874	1,943	69
固定負債	1,371	1,454	83
流動負債	503	489	14
基本金	13,493	13,438	55
消費収支差額	3,195	2,854	341
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	12,172	12,527	355

社)日本建築学会編「集住の知恵 美しく住むかたち」刊行

技報堂出版より(社)日本建築学会編「集住の知恵 美しく住むかたち」が刊行された。この本は、伴丈正志工学部建築学科助教が主査を務める同会・農村計画委員会・集住文化小委員会のメンバーが中心となって執筆、伴丈助教が編者の役割を担い、自らも執筆している。建築分野の専門書だが初学者を対象としており、写真・図が多く判りやすい記述となっている。



李桓人間環境学部助教授「居住福祉」を

を中国語訳し、中国建築工業出版社より出版した。この本に書かれた「居住福祉」の考え方は、日本の住宅事情及び日本の住宅政策における教訓などを広く伝える、学際的な交流を活かした翻訳出版の動機の一つであったとのこと。この本の出版を契機に日中の学者間の交流が深まり、現在、国際間の共同研究と新しい共同出版が進んでいる。

トピックス

TOPICS

TOPICS ①

第42回 造大祭開催！

長崎総合科学大学の学園祭「第42回造大祭」(造大祭実行委員会主催)が、交流・総科大と輪になる「ヨール」をテーマに11月12日(土)、13日(日)に本学キャンパスで開催された。12日(土)は本学CMソングでおなじみの佐世保市出身の人気バンド赤崎コンパ大生によるライブやビンゴ大会、オープンキャンパスも同時開催された。13日(日)は俳優で工学部建築学科卒業生でもある金子昇さんによるトークショー、人間環境学部ISOシンポジウム、長崎ジュニア囲碁大会などのイベントが開催され、子供から大人までたくさんの方が会場所狭しとキャンパス内を歩き回っていた。



TOPICS ②

人間環境学部

ISOシンポジウム開催

人間環境学部では「ISO14001」認証に関するシンポジウムを造大祭にて開催した。
日時 11月13日(日) 14時～16時30分
場所 シーサイドキャンパス212講義室
内容

第1部 基調講演 武政剛弘長崎大学環境科学部教授

第2部 学生によるパネルディスカッション
テーマ「大学のISO14001認証取得の意義」

参加大学 福岡工業大学社会環境学部、長崎大学環境科学部、本学人間環境学部



TOPICS ③

留学生 研修旅行

9月23日～24日、本学留学生の五島福江島への研修旅行があり、大学院、学部、別科合わせて46名の外国人留学生が参加した。一行は、23日朝、長崎港からフェリーにて出発し、お昼前には福江港に到着。その後、バス2台に分乗し、2日間で玉之浦町の大瀬崎断崖・灯台の観光、武家屋敷のふるさと館にてバラモン風の絵付けを体験。富江町のさんさん富江村では、バーベキュー、香珠町の浜では塩工場を見学した。本学では、日本の自然と文化に触れ、留学生同士が親睦と交流を深めるために研修旅行を毎年実施している。



TOPICS ④

「第7回ながさき ITフェア」に参加

10月14日(金)、15日(土)にJR長崎駅かめ広場で開催された「第7回ながさきITフェア」に今年も本学が大学として唯一出展した。このイベントは、長崎県高度情報推進協議会が主催するもので、出展企業による情報通信機器・システムの展示・実演や様々なイベントが行われた。工学部から谷昇教授と学生による、ロボット展示・実演、情報学部からは池末純一教授と学生による「音や映像主体の3Dコンテンツによるプレゼンテーション」、人間環境学部からは横山正人教授が地元企業とタイアップした地域情報化政策と情報技術(福祉情報システム構築)に関する出展があった。



TOPICS ⑤

青少年のための 科学祭典2005 第9回長崎大会に参加

子供たちに科学の楽しさや不思議さを学んでもらおうと「青少年のための科学祭典2005第9回長崎大会」が10月22日(土)・23日(日)に長崎科学館で開催され、本学からも「レゴを使って歩行ロボットを作ろう(安田元一工学部教授)」、「発泡スチロールの鳥や飛行機をとばそう(川尻伸也教職課程教授)」、「きれいなもようをつくらう(金子照之人間環境学部助教授)」、「磁石のはたらきと電気の発生の実験(井手義道非常勤講師)」という企画で参加した。

同祭典は日本科学技術振興財団などの呼びかけで全国的に開催。長崎大会は本学や長崎大学などで実行委を組織し、1997年から開催している。



TOPICS ⑥

長崎歴史文化博物館 館内の建築模型 村田教授が監修

11月3日にオープンした長崎歴史文化博物館(長崎市)で常設展示される建築模型を、村田明久工学部建築学科教授が監修した。オープン前日の2日、「模型でよみがえった長崎文化の宝」と題してNBCニュースで取上げられ、村田教授が出演のうえ模型の紹介を行った。

TOPICS 7

赤とんぼの街づくり スケッチ大会にて マイクロビークル展示

街の美しい景観をスケッチすることで環境維持の大切さを考えていただくことと10月1日(土)、長崎市の水辺の森公園で「赤とんぼの街づくりスケッチ大会(コカコーラウエストジャパン主催)」が開催され、環境保全活動の一環として本学新技術創成研究所にて開発中のマイクロビークルが展示、披露された。マイクロビークルとは、リチウムイオン電池を搭載した新しい小型の乗り物で、例えば、一人乗り電気自動車、電動スクーター、電動カート、電動車椅子など。このスケッチ大会は清涼飲料メーカーが毎年開いているエコロジープログラムで今年が8回目。市内の小学生やその保護者など合わせて850人が参加し、水辺の森公園の一角で絵筆を走らせた。会場には、ペットボトルのリサイクルの紹介や海の環境保全に関するコーナーもあり、マイクロビークルのコーナーでは、子どもたちが実際にその場で乗り、エンジンを掛けたりして、排気ガスのないクリーンなエネルギーの大切さを学んだ。



TOPICS 8

「浜んまち夏まつり」に 参加

7月22日、23日に長崎市内ベルナード観光通り商店街で開催された「浜んまち夏まつり」に本学が出店地域との交流を深めた。「長総大のおにいちゃん、おねえちゃん」と遊んじゃおう!という看板のもと、船のペーパークラフト、振動自動車、段ボールの家、レゴを使った小型ロボット、パソコンを使った模様づくり、紙ひこうきなど、子供たちに科学を楽しく肌で感じてもらう企画が満載。学生自治会メンバーによるゲームコーナーもあり、本学教員や、おにいちゃんおねえちゃん学生に手ほどきを受けた子供たちは大喜びで、大好評だった。



TOPICS 9

ばってんキャンドルナイト 実行委員会 キャンドルを配布

8月6日、7日、本学工学部建築学科3年生の松島加奈さんと大学院1年生の立野雄士君を中心とした市民グループ「ばってんキャンドルナイト実行委員会」が、ベルナード観光および長崎駅前かもめ広場において、被爆60年の原爆の日に行われる「平和の灯火」に合わせて、「平和」と「環境」を考えてもらうきっかけになればと廃油をリサイクルして作製したキャンドルを配布し、各家庭で2時間のライトダウンを呼びかけた。



ばってんキャンドルナイト実行委員会(事務局)
Ad r: 長崎市網場町536長崎総合科学大学建築学科
宮原研究室
Tel: 095・838・4111

TOPICS 10

小学生が 模型飛行機づくり

10月2日、本学体育館において小学生が父親や母親と模型飛行機を作るイベントが開催された。長崎商工会議所が進める「ものづくり教室事業」の一環。子供の理工離れが進む中、ものづくりの楽しさや面白さを体感してもらい、製造業の人材育成につなげようと2000年から実施しているもの。当日は長崎市内の小学5・6年の児童と保護者合わせて約80人が参加した。恒屋礼二郎大学院客員教授が飛行機の仕組みを説明。模



型飛行機の作り方についてモレクチャーし、児童らは飛行機作りに挑戦した。完成後は滞空時間を競う飛行コンテストを実施。滞空時間が延びると場内からは歓声が沸いた。

TOPICS 11

山里小学校、日見小学校の 児童がクルージング

長崎市立山里小学校の児童14名・父母6名が10月15日、海洋・スポーツ文化センター(センター長・脇山祐介)工学部船舶工学科講師)によるクルージング体験を行った。これは長崎市北公民館より要請があったもので、本学学生と職員の協力のもと大学所有のヨット「つる」及び工学部船舶工学科の卒業研究で製作された「Nias23」によるクルージング体験学習を実施した。当日は天候にも



恵まれ、楽しい時間を海の上で過ごした。また、10月23日には日見小学校の児童・父母・地区児童合わせて29名がクルージング体験を行った。日見公民館及び地区児童委員会より要請があったもので、風が冷たかったものの、天候にも恵まれ操船も体験。子供達は大喜びだった。



研究室を訪ねて



繁宮悠介先生を訪ねて

秋の優しい風が稲穂を揺らす10月のある日、心地よい日差しに誘われて、人間環境学部の繁宮悠介先生をシーサイドキャンパスの研究室を訪ねた。

スポーツに熱中した少年時代

先生は愛知県で生まれ育ち、小学校では児童会長も務めた経験もある責任感の強い子供だったそうだ。小学校3年生からはじめた空手は初段の腕前で、剣道やサッカーにも燃えるスポーツ少年だった。夏休みにはよく父親と北アルプスへ登山に行き、その頃から自然に触れるのが好きだったという。

中学校でもサッカー部に所属し、主将を務めた。ポジションはディフェンス。しかし練習がハードで高校では心機一転、弓道部に入部。地区大会で優勝した実績を持つ。弓道

の練習ではよく眼鏡に弦があたって、メガネごと飛んできた経験も何度かあるとか。さすがにメガネが的中なんてことはなかったようだ。

環境問題は人間問題

京都に行きたくて、京都大学の総合人間学部自然環境学科に入学。環境問題に興味があったものの、環境という質問は幅広く、入学当初は、自分がやりたいことがわからずに、迷っていたという。大学2年生になって、教授のアドバイスもあり、環境学の基本ともなる生物について学ぼうと決心した。「実は高校時代の理科の専攻は物理・化学で生物は学んでいなかったんです。大きな声では言えませんが」。そんな、ちやめつけたっぷりの先生が、生物の話になると、目の色が変わり、熱く語り出す。



せっかくだから外でも1枚自然が大好きの様子

「生物の進化を学ぶと、人間のエゴや利他的な面が、どうやって進化したのかを考えたいです。環境を破

壊している人間の心理的な本性まで生物学的に見ることができません。環境問題は自分勝手に環境を壊す人間の問題なのですから。」

カニの出会い

先生はまた、環境問題については、生物についてもっと興味を持ってもらうことが大事だという。そういう思いが強くと、学生も含め誰もが、親しみやすい研究テーマにしようとして、「カニの利き腕」や「貝の色彩」の研究に取り組んでいる。当初は貝の研究に没頭していたが、「貝は見えても動かないし、まどろっこしくて・・・」。そんな時、研究所の近くでカニを捕まえてきたら、動きがコミカルで面白くて、カニの研究も始めたんですよ。」とカニとの出会いを語っていた。



研究室にもやっぱりカニが

さらに「今、生きている生物は昆虫でも植物でも競争にさらされています。生き残るといことが進化にとって重要であり、進化を学べば、環

境破壊の問題意識も自然に浮かんでくるはずですよ。」と強調された。

トライアル&エラーで

学生へのメッセージをお願いですと「生物の進化はトライアル&エラーが本質です。カニが餌を捕るにしてもそうですが、いろいろと失敗を繰り返して、試して、学習するのが生物です。学生も何事にも恐れず、トライしてほしいと思います。」先生は最近、学生たちと食糧を生み出す過程を学ぼうと、外海町の棚田のオーナーになった。まさに米作りを通じて、トライアル&エラーの精神を学んでもらうのが目的。毎日、自宅から大学までの15分の道のりを自転車ですら自然と向き合いながら通勤している。

最後に「ところで先生は、カニは食べられますか？」と尋ねると「食べますよ。でもエビのほうが好きですよ(笑)」。

繁宮悠介
人間環境学部環境文化学科講師。
昭和51年愛知県生まれ。
平成16年3月 京都大学大学院人間・環境学研究所博士後期課程修了。

博士(人間・環境学)。
平成16年4月に本学へ赴任。
日本生態学会、日本動物行動学会、日本進化学会に所属。
専門分野は進化生物学、行動生態学。

取材を通じ、いつも感じること、学生の成長、イベントや大会等に出場するたびに、どんどん成長していく学生の姿をこれからも伝えていきたいと思えます。

表紙の紹介

- 左上：工学部建築学科トルコ研修旅行
- 右上：人間環境学部環境文化学科カナダ研修旅行
- 左下：ソーラーボート&人力水中翼船日本一(夢の船研究会)
- 右下：2005年度造大祭実行委員会メンバー

お悔やみ申し上げます

- 原田大道 本学名誉教授
平成17年9月7日ご逝去 (享年65歳)
- 鳥巢 功 附属高等学校教諭
平成17年10月20日ご逝去 (享年48歳)

編集後記

お知らせしたい事がたくさん有りすぎて編集に苦労しました。今後もちろちら取材させていただきますので、ご協力のほどお願いします。

(H) 取材を通じ、いつも感じること、学生の成長、イベントや大会等に出場するたびに、どんどん成長していく学生の姿をこれからも伝えていきたいと思えます。
(T)



このQRコードで本学携帯電話ホームページにアクセスできます